菜葉拾穂抄 十六

将

内閣文庫
和書
類 三二四九三
號 三〇
冊 一
架 三三一
函

内閣文庫
和書
類 三二四九三
號 三〇
冊 一
架 四
函

共冊

内閣文庫
番號 和 32493
冊數 30 (25)
函號 200 128

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

有由縁雑歌

昔有娘子　尋林良找云
むし　樹子こりつ女子
二人乃壯子ふたりの男子
相争　山男命を殺て
所ちりれいの女子ひ
くる者ものの一女の男と
ちく二門よりの事を吟
す壯子乃心をみやり
まかり　ちり男を矢
りんふいとをて林中に入
て木ふ首をくひて死
よ死ぬ二人の男子の
河を流ぢ　ものかりし
名哥を詠て心をの
作る　狂注曰爲

萬葉集卷第十六

有由縁雑歌

昔者有娘子　字曰櫻兒也于時有二壯士共誂此娘而捐生格競貪死相敵於是娘子歔欷曰從古至今未聞未見一女之身往適二門矣方今壯士之意有難和平不如妾死相害永息爾乃尋入林中懸樹經死其兩壯士不敢哀慟血泣漣襟各陳心

獻歌 玉篇云獻歌歎也
又啼貝 經死相云死

緒作歌二首 姓名未詳

春去れ者 捕頭尓 将為跡 我念之
櫻花者 散去流香聞

抵抄 哥林良枝 つのくに

櫻之名尓繋有 櫻花開さう者
常哉 将戀弥 年之羽尓
妹

或曰有三男娉一女也 娘子字曰
繰兒也 嘆息曰 一女之身易滅如
露三雄之志難平如石遂乃彷徨
池上沉没水底於時其壮士等不
勝哀頽之至各陳所心作歌三首

三人乃男ら之て一人乃
女を之りそ女のあと
ひつ之ことちんを云りる
けり女ら之て一女の男ハ
きしやすきる所の
こと之三雄の志ハ平
さかりさるのこと
ら之ひて沈よ
耳ち乃底よりて
身をなげてうせぬ
そ時三男此之
之ら之て同く沈る抵抄曰家
ちち乃池しうめ ハ平れ抄云耳池大和万
ひさ北山ろのこ ろのゆく
女乃ちとち乃ゆ 日女うせ
何ひさのおろろのこ 抵抄山ろ

姓名未詳

無年 之池 羊蹄 恨 之吾 妹兒之
來作 潜者 水波 将泊 之吾
足曳之山縵之兒今日往跡
吾尓告 世婆選 來麻之平
足曳之玉山縵之兒 如今日
何隈 平見 管來尓 監

[illegible]

竹取翁 或本[illegible]

昔有老翁號曰竹取翁也此翁季春之月登丘遠望忽値煮羹之九箇女子也百嬌無儔花容無止千時娘子等呼老翁嗤曰叔父來吹此燭火也於是翁曰唯唯漸趨徐行着接座上良久娘子等皆共含咲相推讓之曰阿誰呼此翁哉爾

叔父 老翁[illegible]

非慮之外偶逢神仙 [illegible]詞[illegible]久成[illegible]拙[illegible]

嵩乃又[illegible]

贖以謂 服[illegible]贖[illegible]

[illegible]贖銅[illegible]

[illegible]代[illegible]

[illegible]

[illegible]

髮尾信櫛持於是蚊才
舞取束舉而裳纏見
解亂童兒冊成見羅冊
津蚊紐色冊名著來紫
大綾之衣墨江之遠里
小野之真榛持丹穗之為衣冊
狛錦紐冊縫著刺部
宣部波累服打ナハ為
麻績兒等蟻衣之寶之子等
蚊汗絁而織布日曝之

朝手作尾信巾裳成者之ヨ冊
取為支屋所經韜ヨ丁女蚊
妻問迹我冊所來為彼方之
二綾裏沓飛鳥飛鳥壯
土蚊霧禁縫為黒沓刺佩
而庭立住退莫立禁忌
尾迹女蚊髣髴聞而我冊所來為水
縹絹帶尾引帶成
韓冊取為海神之殿
蓋冊飛翔為輕如來

腰細毋取飾氷真十鏡取

雙懸而已敢景還氷見乍春

避而野邊尾廻者面白見我矣

思經敢狭野津鳥來鳴翔經

秋葉而山邊尾往者名津敢馬跡

我矣思經敢天雲裳行田菜引

還立路尾所来者汗氷

刺宮尾見名刺竹之

舎人壯裳忍經等氷還等氷

見乍誰子其迹哉所思而在

玉葉 葉来日文王乃齊 三月田於渭陽平見 大公坐茅以漁文王勞而問之乃載與歸

わりけん 子等 所詈 金目 めや

ゝこはかりみくしこと出こ通と出こハ代の明鏡かゝ

とおいうあひとと 世ふをとこ の自繁

けりとりめはく けりハ自繁乃生とんや こ ハ九の子こ

とりせんこと もの まこハ禁 婦 ハ九の子こ 自繁

せんなはく けりハかのこと

ときやし なさなの

おりゝさハ多ちき

也九人まくこのれハこ

かやけていかハ義流

ゆくやけてハ云こ

とさやしハ云る

ゆ義の弄ふゝけり

もちを丹いとちを

和歌九首 端 寸八 為 老夫之 歌冊大 欲寸

もちき和こ 兒等 哉 政間毛 而 将居

九 こ の こ や ひ て こ ん

辱尾 恐 辱尾 黙 無事

もちを丹いとちを こ ん

物 不言 先 冊 我者 将依

のいとね さ さ ま わ ま ハ り ん

おりけ相雅讓之曰阿誰呼此翁哉之九女皆和義拘ひ出され人のいとねさ義拘ひ出さた義拘ひ出

近付よりんこと

いあもうもなりこん

うハ諾乃宇なも和

いやとなもし於丹

ゆれいとゆゝけり

すとくたひ後んこと

とおいいまも口ふ

安の口ふハとりと

あふぜんこと ひハ

ひけさめふこりこと

ひけもけりすある

否藻 諾な藻 隨 欲 可歟

おりけん 所見 我 我藻 将依 而為

貌 左藻 生藻 同 心迹結

とふしいまる

交八 違 我藻 将依

ともいこと

何為 迹 違 将居 否藻 諾な藻

あふぜんと

交之波 我賞 将依

豈藻 波

ひけめ

事藻 不在 自 身之柄 人 子之

こと

者田 為々す 穂庭 英出 思 而 有

情 者 所知 我藻 将依

こと

万葉六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

感懷情懷[illegible]

霞余 [illegible]

[illegible]

於是八千[illegible]

[illegible]

既了乃詣相視娘子之姿容疲羸甚異言語哽咽于時壯士哀嘆流淚裁歌口號其歌一首

姓名未詳

如是 [illegible] 亦有家流物平 稱名川之

かくのみよるるあをなみ川乃

奥平 深目而 吾念 有來

おきにとりめくわかおもひかな

臥閑 [illegible] 夫君之歌從枕舉頭應聲和

歌一首

烏玉之黒髮 娘子所沾而泫雪之

うたまくるくろかみぬれてあい雪の

零也 來座 幾許戀者

ゆきとすこしふれい

猶豫 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時雪落故作泫雪句

傳曰時有女子不知父母竊接壯士也壯士悚惕其親呵嘖猶有猶豫之意因此娘子裁作斯歌贈其壯士一首

姓名未詳

丈夫者小泊瀬山乃石城尓母事有之隱者共莫思吾背

こもりくの[illegible]

傳曰葛城王遣陸奥國之時國司祗承緩怠異甚於時王意不悅怒色顕面雖設飲饌不肯宴樂於是

葛城王八千[illegible]云葛性王[illegible]絵姿[illegible]

[illegible]諸兄[illegible]
祇承　王命[illegible]
[illegible]
飲饌　酒食
[illegible]持水　酒を持
あさくら山[illegible]
序奇　安積山奥
列　[illegible]
[illegible]

有前采女風流娘子[illegible]手捧觴
右手持水擊之王膝而詠此歌
尒乃王意解脫樂飲終日

姓名未詳

安積香影副　許見井之
あさくら山かげさへみるゆゑに　念莫國
浅　吾
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

傳云時有所幸娘子姓名未詳寵薄而後還賜寄物俗云可於是娘子怨恨聊作歌獻上

姓名未詳

商變領為跡之御法有者許曽吾待下衣及賜米

傳云昔有娘子也相別其夫望戀經年時夫君更娶他妻正身不來徒贈裹物因此娘子作此恨歌還剛之

姓名未詳

味飯千水尓釀成代者曽無直尓之不有者吾待下衣及賜米

傳云昔有娘子姓車持氏也其夫經年席不往來時娘子係戀傷心沉卧病痩羸日異忽臨泉路於是遣使喚其夫君來而乃歌欲流涕口號斯歌登時逝沒也

車持氏闕名

之三言玉拌不來者憶病吾

古人歌を作りて酒肴を送りて慰め問ふ歌

小右手持水を酒に成し我待代うつて今こそ酒作者くして待かねるもあさましてみれば他妻を思ふ

病疾 玉篇に病は病尚病也疾は疫に尚熱疾也

泉路 黄泉也

登時逝沒 其時死也

さかしらに君をかもとくいつとしらぬ

君夫君ら沖河こて

久保もこすも

ものちつのをそのふかせ

代者曽無直尓之不有者吾待下衣及賜米

ものちつのをそのふかせ

千盤破　亀毛　伊知　碎　而　将死　足　千根　応死　向　ト部座　莫頁　ト部　蒲　吾　曽　保里　村　肝乃　尓涙　莫　曽　君可　吾半　喚　八十　百　不足　八十　衢　石　吾之故　衢　石　雖問

反歌　八十　衢　石　雖問

君　乎　相見　吾　惜　雲　不有　依　而　長　欲　為　君　尓　多　時　不知　毛

侍　云　時　有　娘子　夫君　見棄　改適　他氏　也　時　或　壮士　不知　改適　贈歌　而請　女之　又　乃　孰　以　改適之　縁也

贈　歌　一首　姓名未詳

真　珠　者　緒　絶　為尓　伎登　之　其　緒　復　貫　吾　遊為

右歌一首　姓名未詳

白玉 緒絶者信 雖然

其緒 又 貫 去家有

宴飲之日酒酣之時好誦斯歌

以為恒也 穂積親王 藏 而師

櫃 鏁 刺 懸 束見 奴 而

宴居之時彈琴而即先誦此歌

可流 羽須波 田盧 乃 吾兄子者

二布夫尓 吠而 所見

以為常行也 河村王

田盧者多夫世也 朝 香火之 乃 鳴 川津

之努比管 有 常 将告 兒毛欲得

宴居之日取琴登時必先吟詠

此歌二首 小鯛王或名置始 零者 多久義

暮立 草花之 於母保遊 措 哉

夕 形 平可 宜 義 諾所用 来

附 日 夕附日 上小 自家 乎 与 毋 与 無 伊 与 乎 伊 与 乎 伊 与 乎

寄物陳思王乃寄ものゝ題ゆゑ俱に[illegible]
玉案童蒙抄に[illegible]

所詠　けさしいさ
[illegible]
司馬相如以琴心詠卓文君とゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
所詠とゆゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

時有娘子姓尺度氏也此娘子不聽高姓美人之所詠應許下姓麗人之所詠也於是裁作此歌嗤笑彼愚也

何所兒部女王不飽矣坂門等之義麗

よきあはれ[illegible]
角乃布久礼亦四具比相

古歌一首　作者未詳吾亭宿之

[illegible]

[illegible]
行騰勝むりそきさ[illegible]
[illegible]
[illegible]

詠荷葉歌一首　長忌寸意吉麻呂

蓮

[illegible]
家在物者芋毛乃有之

詠雙六頭歌一首　長忌寸意吉麻呂

一之目耳不一有雙六乃優劇

[illegible]
[illegible]

詠香塔厠采鮒奴歌一首

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

流せさるとの口訣とす

兄安云香ぬきて塔婆をかりいろの彩色するとの痛女奴きしあるさやつこと云心五素色兄安の注のち方法師法ハ法せとひきかすにひるさ

せさるくハさしかせさるくの心ハ我ハ翔とくいきりを出ハあるされ長ハあるせるとあるはおそるさかりこ法九

兄安云帰を塩そ

香塗流　長忌寸意吉麻呂

からぬきて塔婆亦莫依隅乃かりうすすの屎鮒喫有痛女奴きめるくるさやつこ

詠酢醬蒜鯛水蒸歌一首

長忌寸意吉麻呂

酢亦蒜都伎合而鯛願吾余加所見水蒸乃煮物

ひさかたの雨ふるにはさかなかいねらふ

わすれかたせるあつもの

詠玉掃鎌天木香棗歌一首

帰

おそるさかりこ法九

長忌寸意吉麻呂

刈来鎌麻呂室乃樹與

童女波奈理波

うなゐこ上なりハ髪のけつらんの

推野連長手説曰夫寺者不在俗人寝處亦稱弱冠女曰放髪卅者

卅矣然則腰句已云放髪卅者

尾句不可重云若冠之辞哉改

云　持ちて有　光三　吾幸宿之

宇奈為放尓

うなゐこなりハ髪あけつらんの

万十六又十二

小れ四ツ心四見比

相ハ法ゑみ所ゆさ

持乃寺ハ長屋の

兄安云うなゐこ

男とせさるを女を髪

男とする女方好く

上つらんの女方好く

男とする云ふ重

持寺八宅ハ三河国

拾芥云菩提寺号播

寺志度道場上西

海人立之

持乃てらの屋　童蒙抄云おとの屋ハ海の屋

せとと云　類聚童蒙抄ハうなゐこ

鳴る海の屋ハ我ハ

童宿云ふ髪上

おとの寺ハ義と

夜漏　漏刻乃ふ

侍曰一時衆會宴飲也於是夜

奥麻呂　意吉麻呂全

さすらへ山とすらへハ湯ハ
仙口とすらへハ温泉
也きりとハ狐也又云
櫟津ハ名所也ひと
ハ柱乃本也柱乃
きつふあむさんハ狐
ふあみせんそとも云
云家　和名云銚子
四聲字苑云銚焼器
似鍋鐺而上有鋬也
唐韻云鍋鐺溢器
すこしとさあを菜
又安あとおりてハ
ちさき菜為しるし

漏三更所聞狐聲勇乃衆諸
誘奥麻呂曰聞此饌奥雑器
狐聲河橋等物併作歌者即
應聲作歌一首

長忌寸意吉麻呂
等　櫟津

名倍
刺
さすらへ湯わりせふそいちはの
擔橋　従来　許武　狐　尓
ひりこんきつなのりもさん

詠行騰蔓菁食蕨屋梁歌一首

長忌寸意吉麻呂
菁　煮　将来　探　尓

金　蕨　敷
すこしきあとおりてこうつりハ

かためりてとそ神
ハ云菁とハ菁とを
ちめておとりはとそ
云ハ畧注但ハ中帝ハ
ときこしきりと被菁
ふしとも又ハ神の
帝と伝くまよ
ねハ
けりの力士部
又安云池神ハ
也力士ハ寺乃門
二王也自然
ひとりてとハ
校と云ハ
とよりて
剛力士皆鉾

かためりてとそ神
ハ云菁とハ菁とを
ちめておとりはとそ
云ハ畧注但ハ中帝ハ
ときこしきりと被菁
ふしとも又ハ神の
帝と伝くまよ
ねハ
けりの力士部
又安云池神ハ
也力士ハ寺乃門
二王也自然
ひとりてとハ
校と云ハ
とよりて
剛力士皆鉾と持

詠白鷺啄木飛歌一首

長忌寸意吉麻呂

池　神　力　士　鉾　啄　持　而　飛
けりの力士ハ
とりてとそ
詠数種物歌一首

傑　可　白　鷺　乃
ちとりハ　渡　良武

かくしちりぬ
叫うけハ刈ちり
そけし屎遠麻礼
ハ日本紀第一日條放
屎於新宮山河ハ
らうひ〳〵之安云
拵造刀自刀自ハ女乃夢尼〳〵
毋為負今按謂老女為負字從負也今訛以負為負欤
へうすとう
鹿りのりかるやと
山寺方四古第凡
体ニしろりてうん
ゝ行ヲ之安ハ
ちと和ハ仙覚ハ後
國乃後りちさ
うすやしろとよ

択
かくしちりぬ
屎幸〳〵
麻礼
辣原忌部首闕名刈除曽氣倉将立
構造刀自
刀自列女傳云古語老
和名云負俗作負
詠數種物歌一首
境部王穂積親王之子也
越而青乎
尓
毛我
刀
将來
劔
尓
鮫龍
取
鹿りのり古屋をこしくりを閑よ
しろりのてうけきしもり
一首
作者未詳

成
兼
寸三二
栗嗣延曰葛乃
後毛将絹跡葵
咲
ありつめきみかのつきすのもしもあるらんこあるひ若さく
萬葉云周處三害乃心也蛟竜とりてのち
ハ心やすしと云しこ
萬葉云周處入山射殺猛虎投水搏殺蛟遂励志好学有文思上下略
ちられうも心ゆそうの古事ハ及つうすハ
ねうひよりもりされハしろとよみつちとみくしもりの古事
凡待りちさうみへ〳〵

万十六 十五

ありつめきみかのつき
之安云ありつのねと
よめる奇也あそつき
ハ逢とりの心し或説
云きみを泰と云う
あるとうてうり葵亦
逢とよ汨ふうへねと

或人曰新田部親王出遊都裡御
見勝開田之池感心中還自彼池
不忍怜愛於時語婦人曰今日遊
行見勝開田池水影蕩々蓮花灼
灼可隣斷腸不可得言尓乃婦人

かつらぎの池は
仙日新田部親王の賜へる
なり
作此戯歌専輙吟詠也　姓名未詳

勝間田之池は我れこそ掬すれ　有知蓮無
然言之髭無如之　たつのいふ君しひげなしこと

謗侵人歌一首　博士消奈行文大夫

奈良山乃こけて柏の下に　兒手之両面倭
龍の尾毛右　たふれもしけり　毛侵
ねたけ人之友

絃固寺花ハ下紐も無花なれ　人をふ富彼方の菓間知人
ト作ハ彼方の近き様の作なり　暑注又安云むりいまあり
なるべし今ハ安きこと如乃狂てよめるなり

万十六　十六

あるべし山乃こけ柏の　祇曰是ハ柏を以て
人をハ云なり　柏乃葉ハ
又ゆふかしてとも　音義抄云兒手柏と云
葉ちいさきをいふ　池中物云絃固寺花云柏とこのてりはと云
又ゆふかしてと云兒乃手に　或ハ安云柏ちいさき柏なり
おなじ乃花　暑注玉東西抄寺いとれ野乃萩乃
にこれて　別物也寺ハ柏なり
右兵衛　右乃尉なり
府家　兵衛府乃舎人
佐乃家なり
府官人　兵衛乃尉志
府生なり

傳云有右兵衛姓名未詳多能歌作之藝也時府家備設酒食饗宴府官人等是饌食盛之皆用荷葉諸人酒酣歌舞乃誘兵衛云開其荷葉而作此歌者登時應聲作此歌一首

久[之]毛[乃]落[奴可]ぬりそちすそう[乃]むよみん[乃]
心[ハ]く

右兵衛
蓮　荷[尓]
似[将]有[見]

無心所着歌

八[ハ]ぢ[ハ]ぬ[ハ]ぬ[ハ]ぬ

[illegible]寺小鍋嶋を作
玉山集所小大寺の鍋
嶋乃上りてよねうく
とらめるみて知て
大神朝臣奥守
男鍋嶋と男ぬすり
てをる脇人とりて
佛法をあつ用うす
凡安云佛を赤くさ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大神朝臣奥守

辨喧咲歌一首

造 真朱 不足者 停佛

佛[illegible]乃阿曽我鼻上平窄礼

地印あうさをかうへなれ

喧咲穂積朝臣歌一首

平群朝臣

小児等 者勿刈 八穂蓼平

[illegible]乃阿曽我腹草平可礼

穂[illegible]乃[illegible]

和歌一首 穂積朝臣

何所 曽 真朱 穿 岳 蔦疊

[illegible]

平群乃阿曽我

[illegible]乃あうら鼻乃上をかれ

喧咲巨勢朝臣豊人黒色歌一首

土師宿祢水通字志婢麻呂

爲 斐太 大黒 毎覓

[illegible]之

巨勢乃小黒之所念可聞

[illegible]

斐太朝臣嶋村大丈之男也名字未詳

答歌一首 巨勢豊人字正月麻呂

造駒 土師乃志婢麻呂 有者

[illegible]

諸 欲 将有 其 黒 色 平

[illegible]

也八穂の手る蓼
乃ゑ[illegible]伯日種の收
[illegible]八種蓼
[illegible]八
人乃蜘[illegible]人乃脇
香の[illegible]
いつこ[illegible]隣[illegible]
[illegible]日本紀景行天皇所
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

宿禰水通乳色白き人なれハ毛足ハ
[illegible]
[illegible]の髮の剃ゞ乃
[illegible]
[illegible]
こハ法師ぞ[illegible]
[illegible]
檀越や[illegible]
人安云 檀越ハ檀那
[illegible]
[illegible]
[illegible]

生老病死苦れうそもあわきを世界は幸けきことを夢幻乃山家と志けく
くいとるとの屋り住そてとく去りも加く厭離すへき穢土なりと熟考
すると住そてとなしいさんを浄土とも
いさなりの海や　旋頭寿　いさなりハ海をいう花形ハ海山ハ死ること
ろハ海ハ海千山ろ拓ろ死すること山海ろ去り非ろ死ろんの寿の形ハ無常歌と知るべし
ろの心ろ或本ろ山高ることや乃山は寿の形ハ無常歌と知るべし

蘓姑射山　荘子逍遥遊篇云蘓姑射山有神人居焉又云堯治天下之民平海内之政往見四子藐姑射之山汾水之陽註山海經云蘓姑射在冀海外　奥儀抄云堯帝位をのれて姑射山りぬるふ山はよりわれすとそやの山とりふ八宝抄云そやの山山乃名をくはきこれ仙洞とりふこと心をしふりのさと　奥儀抄云蘓子行有く郷也八宝抄云

蘓姑射山歌一首　作者未詳

平之無也何有乃郷尓而有者
ふりのさと　ふりの山を見ると
蘓姑射能　未久知香鈴務
そこやの山を見ると知りけん

万十六　二十

ふりの乃さと　ふりの山ハ我心を万物ハ
道乃中小ふりの山　真神人乃住とりふ
去りしぶ　ふり伝説　未ひ　ふりの
寺と志寺おはせり
仁教之子　仁也　教乃
男子ら
喫飲　ろひのこと

石ゆろよ我物ゆろす
乃安云石麻呂八人の
名也　ひなるきこハうか
きものろ

逍遥遊篇云無何有之郷廣莫之野陸方壺云寂莫虚曠之地喩道之本郷林希逸云言造化自然至道之中自有可樂之地也　後漢書東方朔傳云寂莫虚無乃山　注云山寺

有吉田連老字曰石麻呂所謂仁教之子也其老為人身體甚瘦雖多喫飲形似飢人因此聊作斯歌以為戯咲也

麻呂尓吾　瘦尓　食尓
ろよわ　物　武奈　伎取
吉跡云　曽
ろと　ものろ　ひなるきこと

[illegible]

食此云壹也

報答歌一首　吉田連石麻呂

瘦母生有者將在乎波多也鴻多武奈伎枝乎漁取跡尓流切

詠敷種物歌二首　高宮王

葛莢尓延於保登礼流屋葛絶事無宦

婆羅門作有流乎喫

臉臚而憧尓居

京和名云莢莢カラサヤ俗云蛇結又云細子草　皆八月ニ結ル子草の序意

仙日婆羅門ニ知ラレ

仏子道ニ入レル

呪ニ曰ル

烏の行ル

暗ク惰ル

[illegible]

[illegible]

傳云佗為王有辺習婬也于時宿井直不逞丈君難遇感情馳結係戀

實深於是當宿之夜夢裏相見覺寤探抱首無觸手尓乃哽咽歔欷

高聲吟詠此歌因王聞之哀慟永免侍宿也

飯喫

姓名未詳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢裡相見　遊仙窟云夢見十娘驚覺恨之忽然空手この併

[illegible]

万十六　十二

忌忠心藏赤さ
りかれとゝひ出ん
男丈ハ京師に
をかゝくこゝろ
このこゝろわ
叡山ハ熟功乃賞
叡爵すゝ
ハ我山此の
力と書せ
葉めてもと勲功ハ
しそ
位の冠
叡爵
功乃冠
ばせ
浅
これ
丈ハ
功の字
ハ
ハ
ハ

殉死 主人の死に
[illegible]
詩詰 [illegible]

犢墓 主人の[illegible]
[illegible]の母
[illegible]
[illegible]の[illegible]
太宰府より津丸と
[illegible]れ墓離
[illegible]
[illegible]と[illegible]
云[illegible]

容齒衰老不堪海路故來祗候
願爲相代矣於是荒雉許諾遂
從彼事自肥前國松浦縣義祢
良久崎發船直射對馬渡海登
時忽天暗冥暴風交雨竟沉沒
海中焉因斯妻子等不勝犢墓
裁作此歌十首或云筑前國守山上憶良臣感
妻子之哀傷述志而作之 白水郎妻 情進尓
荒雉良奥尓振之
[illegible]

宰府八[illegible]
[illegible]
[illegible]

彼津九ハ古歌伝ふ
まつさてつるさ
れめ荒雄ハ人か
らて見ふ
ふ〜ねめこ乃
めこのわさ産業
すきりひこらすわ
いこハさ〜やんこ
たさつうりもこ云
又安云舟と略ふて
俗るうは正業日本
紀彦火火出見の伝奇
神話多略つ略る
我れ好こ山猟八任
おや〜の弓箭おこ
荒雄ら舟と行作〜

行之 荒 雄良 波小 神振
ふ 雄良者妻子之産業者釣漁不給口
ふ 之 八家 平 行 勝 宝座
ら乃 鳥 鴨 之 者
奥 也良乃 崎 守 之選 者 許曽
奥 鴨 者 岩 來跡 所聞 赤 羅小 尓 裏 遣者
去 武 而 解 牧 見 鴨
若 大 船 尓 小 副

おさつ多かりとよ
〜こ〜ハ〜ふ〜ふ〜し 廻〜〜
たさゆ〜やあ〜〜小舟 又安云赤羅小舟
裏ど云ふ〜ふる船 〜ふ〜ふ〜ふ乃ふ〜ふ〜ふ
ふ〜船〜ふ〜ふ 〜ふ〜ハ潜乃ふ〜ふ 波ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜溺死ふ
〜ふ〜ふ〜ふ

志賀乃荒 雄尓 潜 狩猟 八方
ふ乃ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜

友とせんと
わが門乃之援実毛利喫百子もりくに吉食
仙日百子鳥人の多て云
い堂とされもいくり
核の実は牡わ〻梅心
多者と可ん〻て百と
つ〻るとて〻よりも略
注百子者能仙接能和
日乃門りゝ多者志は
仙日志ゝ〻くは志ゆり
ゆ〻ゝ多者は〻
方も成りと志く
ま〻と云は寿は人乃者と五ひ
人ゆゝと志れすて楚ゝん〻と
ゆる鹿をとゝ〻る 又安云は
ゆこ堂は若草乃やりゝ〻る

吾わが門乃之援実毛利喫百子
多者は者雖来
吾 介
日乃門乃之
我
わが一巻乃妻人乃志
一首
所射鹿を乎認
弱
身わが可倍介佐宿之兒等波母
作者未詳
ゆ〻ゝ〻ゝ〻ゝ

わくらはの　はるかなるみやうとけと同音　又日本紀ふうか
ゆるる　あれ　ちとせ　ふる　こと　ゆ　何　ちうあ　ゆ　ゆ　こ　ゆ　ゆ
ゆ　乃　ち　つ　を　ゆ　り　ち　河　ま　を　ち　ら　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
七寶乃心ゆて云ゆ　結をけるなり

豊前國歌一首

白水郎

豊國　企玖乃　奈流　之宇礼平
ことよ　くの　ゆ　の　ち　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

作者未詳

越中國歌四首

作者未詳

施僧尼衛護令被道
業故云分衛法集云
乞食破一切憍慢故略
いと云きゝ名人の名ハ
もゝ[illegible]の[illegible]ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

恐照　八

難麻理久居　掌河尓平　王　為牟尓　吾平　呂良米夜　久

跡　吾知　呂良米夜　跡和平　呂良米夜　引

笛　吹　跡和平　良米夜

我が門の稲穂を見しめ〜京百〜と
歌笛琴管に我供が
あるす我も供今の日
男とまんとこいんて
かれもうけんこそ云
あすか先祖の名の名
をさきるか 乃安云乃乃
たくぬる乃安云乃乃
名とつめと云
まてかるれいを
まて作すこと
ふこと叫こと
乃安云乃こと叫こ
墓乃ふ叫宮こる
ふこと銀これ牛か

和平 台 良来夜 彼 毛 今受年跡 今日
わをめすや 時 うんと 仁
今月 跡 飛鳥 尓 到 雖立 置
乃と行すふいこと雖立れもきき
加尓 到 都久怒尓 到
あるいこと 雖不策 ねこたぬるいこと
東 門由 桑 納
ひんこと乃中れ ゆまこりいこ末
区 余 受例 婆 尓 已曽 布毛 太志可
おかすれい馬こと ふこと
久物 牛 尓 已曽 梟 縄 波久例 花 豆川
乃 乃 毛武 尓礼平 五百枝 波伎
乃 乃 乃

あめかぶちらの
乙安天かぶちらの
ものとこの組をうそつ
つるゝさらの物のとハ
乃乃ゝ葉さらの小野
乃乃小や茅乃刈ゝお
ものゝ結ねの葉ゝり
詠の立ゝるゝゝ心や
おきつ白ゝゝゝ去
乃安云領君ハ白ゝ深
屋形ハ黄ゝ陳ゝる屋形ゝ葉奥乃屋見黄門乃お家ゝ
神のゝゝ乃ゝ乃ハ乃安云雷乃明御ゝ家ゝ
人ゝ命れさゝゝ乃乃安云人乃れ書ゝ葉人命ハ詞
乃ゝ書ゝゝ人ハ一人命ゝ書ハ年ゝ
ゝゝり明ゝれハ乃ゝゝと乃ハ心ゝ皆人ゝ乃ゝ乃ゝ

真享三年 丙寅六月吾書于新玉津嶋菴下写畢付三十枚 秀

草刈波可介乎立毛
かやゝり
奥領イヒ之
おきつ白ゝゝゝ
深之
黄ゝめ乃屋形之門渡
人ゝ魂乃佐青有之祖獨
相有之雨葉非尤思所念
おゝ乃ゝ
萬葉集巻第十六

国立公文書館
National Archives of Japan